



| Data  |
|---|
| 監督: グレッグ・モットーラ  |
| 出演: サイモン・ベッグ / ニック・フロスト / ジェイソン・ベイトマン / クリスティン・ウィグ / ビル・ヘイダー / ジョー・ロー / トルグリオ / プライス / ダナー / ジョン・キャロル / リンチ / ジェーン・リンチ / シガーニー・ウィーヴァー / セス・ローゲン |

## 👁️👁️ みどころ

宇宙人のイメージはさまざまだが、本作にみる宇宙人ポールの風貌は？ 2人のSFオタクが随所で見せる、スティーヴン・スピルバーグ監督や『E.T.』（82年）、『未知への遭遇』（77年）へのオマージュはSFファンにはたまらないだろうが、それがわからない人は少し興ざめ？

ドタバタ劇を伴うロードムービーとしても十分楽しめるが、意外なラストでの大騒動を経た大団円は、想定の内……？

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

## SFオタクには最高？

本作のチラシを読むと、本作のウリは「笑って泣ける感動のSFコメディ ついに日本上陸！」。そしてチラシには「宇宙人ポール」らしい小型で愛嬌のある1人（1匹？）のエイリアンが写っていたが、私はもともとSFコメディものはあまり好きではないので、こりゃノーサンキュー。そう思っていたが、キネマ旬報2012年1月上旬号「REVIEW 鑑賞ガイド」において、本作は3氏から5点、4点、4点をつけられていたため、何とか時間を作って劇場へ。

しかし、SFオタクでない私には、スティーヴン・スピルバーグ監督や同監督のヒット作『E.T.』（82年）や『未知との遭遇』（77年）に捧げられているらしい多くのオマージュがさっぱりわからないから、やっぱり本作は私には不向き？しかし逆に、SFオタクには本作は最高？

ストーリーの軸は、SFオタクとポールとの友情と絆！

本作はイギリス人のSF作家のクライヴ（ニック・フロスト）とその親友であるイラストレーターのグレアム（サイモン・ベッグ）という2人のSFオタクが、RV車をレンタルして少年時代からの夢だったアメリカ西部のUFOスポット巡りに出発するところから物語が始まる。しかし、その前の映画冒頭で60年前の1947年に起きた「ある出来事」が描かれ、それによって本作の進行が暗示されるから、まずはそれに注目！

2人のSFオタクは出発直後に起きた暴走車の事故によって宇宙人ポール（声セス・ローゲン）と出会うことによって、以降本作はポールを伴った2人のSFオタクのロードムービーとなる。2人はポールから「故郷に帰る手伝いをしてほしい」と頼まれたからそれに協力してやろうとしたただけだが、そのロードムービーの中でポールと2人のSFオタクとの間で芽生える友情と絆が本作のストーリーの軸になる。さあ、いくらSFオタクとはいえ地球上の人間と、どこかの星からやって来たらしい宇宙人ポールとの友情と絆は、いかにして築かれるのだろうか？

### 3人に絡むキャラたちは？

なぜポールが車を暴走運転していたのか私には最初わからなかったが、ヤリ手の捜査官ゾイル（ジェイソン・ベイトマン）やその応援部隊である新人コンビのハガード（ビル・ヘイダー）とオライリー（ジョー・ロー・トルグリオ）がポールを逮捕するべく懸命の追走をしている姿を見ると、なるほどアメリカのエイリアン対策はこうだったのかということをし少し理解？さらに、本作では途中から紅一点のルース（クリスティン・ウィグ）がロードムービーに加わるところが1つのミソだが、彼女を取り戻すべく3人を追走する父親のモーゼス（ジョン・キャロル・リンチ）が頑迷なキリスト教原理主義者だということが面白い。娘のルースも父親の影響を受けて頑迷なキリスト教原理主義者だったのだが、ポールがルースに対して施した「ある奇跡」によって、ルースはその心を解放することに。

ポールを含む3人（途中から4人）のロードムービーと、これを追いかける3人の捜査官やルースの父親たちとのドタバタ劇（？）はたしかに多くの笑いを呼ぶが、さて肝心の感動は？

### 「最終地点」には意外な展開が！そして・・・

映画途中からは3人の捜査官のチームワークの悪さ（？）がやけに目に付くが、そのおかげで（？）3人（いや4人）は間一髪のところまで逮捕を免れることができていた。しかしゾイルが無線でさかんに連絡をとっている（指示を仰いでいる？）女性の声は、一体ダレ？さらに徹底的に娘の後を追いかけるモーゼスがゾイルたちの追走の邪魔になったとき、ゾイルは容赦なくモーゼスに銃弾を浴びせたから、モーゼスの生死は？

そんなこんな謎をはらみながら、またラストに向けては4人の間で形成された厚い友情と絆を存分に見せつけながら、4人はついに「最終地点」に到着するが、さてそこで待

ち受けるあっと驚く展開とは？そこではそれまで声だけの登場だった女性（シガーニー・ウィーヴァー）が登場するが、さてビッグ・ガイと称するこの女は一体何者？もっとも、最終地点での大騒動が終わると、あとはあるべき結末に向けて一直線。こんな風景はSFオタクでなくても、宇宙モノではごく見慣れたものだが、そこで生まれる爽快感や感動とは？

2012（平成24）年1月12日記